

強い愛郷心入団促す

なるほど！

九州

水害が気かりな季節。防災の最前線に立つ消防団は、地域住民のボランティア組織として長い歴史を持つ。

佐賀県は、人口1000人当たりの消防団員数が全国の都道府県で1位。その記録は少なくとも2002年度から続く。佐賀県消防協会常務理事の古賀大喜さん(67)にその理由を説明させれば、こうなる。

「消防団に入らば、嫁の来てはなか。一人前とも認められんばい」

佐賀市内の消防隊員や県消防学校教官を計35年務めた。1000人以上の消防署員を育て、消防団とも交流を重ねた。消防一筋の中で導き出した答えが、「消防団入りは、佐賀の大人になるための大事な通過点」。

消防団員歴36年の佐賀市消防団南部方面隊長・中島敬司さん(60)も、古賀さんと同じ思いを抱く。

県外から帰郷した1978年、自宅に来た地元の消防団幹部は黙って団員服を中島さんに手渡した。入団の誘いも意思確認もなし。「佐賀の社会人として、消防団員になることは必然だったんです」と

消防団組織率全国一

(佐賀県)

振り返る。

全国有数の米どころ、佐賀平野。農業用水路「クリーク」が張り巡らされた低平地は水害に常に悩まされてきた。消防団員は水害時に出勤する水防団員を兼ねており、高い組織率を保つ背景には、水害との闘いの歴史が背景にあるようだ。

佐賀県内の災害史をまとめた「県災異誌」によると、豪雨、台風、高潮などでの水害は明治以降、小規模なものを含めるとほぼ毎年のように発生。治水対策が進んだ戦後でも、死傷者が10人を超す水害



全国有数の米どころ

佐賀

水害

消防団員

水防団員

組織率

背景

歴史

背景

水害

消防団員

組織率

背景

歴史

背景

水害

消防団員

組織率

背景

歴史

背景

水害

消防団員

組織率

背景

歴史

背景

水害

消防団員

組織率

背景

歴史

背景

水害

消防団員

組織率

背景

歴史



4月に発足した佐賀県庁職員でつくる消防団組織

なるほどデータ

総務省消防庁の「消防白書」に掲載される全国都道府県別の消防団員数や住民基本台帳人口を基に、佐賀県は年1回、消防団の組織率を独自に算出している。人口1000人あたりの消防団員数は2013年度、佐賀県は22.7人で、全国平均の6.77人の約3倍だ。2位は山形県の22.26人、3位は熊本県の18.85人。

佐賀県内でも消防団員数は減少傾向にある。02年度の2万861人から13年度は1万9374人に減った。とくに20歳以下の減少が目立ち、全体での占める割合はピーク時の40%台から20%台に落ち込んだ。また、昼間は地域を離れる「サラリーマン団員」が全体の75%を占めており、日中の組織力維持も課題となっている。

消防団は、地域の伝統行事を守る役目も果たしてきた。佐賀県唐津市で11月に開かれる国指定重要無形民俗文化財「唐津くんち」で、獅子や兜(かぶと)などの「曳山(やま)」を引く男衆の多くは消防団員。くんちの神事をつかさどる唐津神社によると、戦前の1940年までは消防団の前身とされる「消防組」が祭りの運営を仕切ったという。今も男衆はみな、江戸時代の町火消しの装束をまとう。唐津市消防団外町分団は、巨大たいまつを燃やし厄払いする

行事「おんじやおんじ」の伝承に貢献した功績から、02年に消防団長官表彰を受けた。

ちょっと寄り道

唐津市西城内の唐津曳山展示場では、「唐津くんち」で使う曳山を現在12台展示している。

鯛(たい)や鯨(しんじょう)、龍、獅子などのほか、武田信玄や源義経ら武将の兜などを、金や銀、朱などできらびやかにかたどっている。いずれも江戸末期の1819年から明治初期の1876年に制作され、受け継がれてきた。

入場料は大人(15歳以上)300円、子ども150円、4歳未満は無料。開館時間は午前9時～午後5時。休館日は12月の第1火、水曜日と同月29～31日。問い合わせは同館(0955・73・4361)へ。



江戸時代の町火消しの装束で練り歩く「唐津くんち」の男衆

「水害に備えて土のうを積んだり、町民に避難を呼びかけたたりするには、どうして多くの団員が必要」。佐賀市消防団川副支団長の中尾貞弘さん(63)は話す。生まれ育った街は自分たちで守る。強い愛郷心が学校に行くの

4月、全国の都道府県に先駆けて、県庁職員でつくる消防団「佐賀市消防団中央分団」を始めた。

勤務地も自分が暮らす大切な街。県庁の仕事とは違う使命感が新たなやりがいを生み出している。(小山田昌人

そんな佐賀県でも、消防団員の担い手不足という全国的な潮流にのみ込まれそう。団員へのメリット拡充を、と県消防協会は、消防団員向けの割引を実施する飲食店の募集を始めた。

5月12日正午、佐賀市内で建物火災が起きた。部員7人は団員服に着替え、小型ポンプ車で初出勤。現場では、残り火の処理や交通整理に当たり、消火活動をサポートした。部長を務める奥村浩太郎(49)は、自宅がある小城市で消防団に所属。「出勤先で住民や消防団幹部から『お疲れさん』と声をかけてもらった」と満足そうに振り返る。



県庁部員が誕生した。サラリーマンに勤務先の地域の消防団に入団してもらおうとモデルケースにしよつ、という取り組みだ。25人が所属する。5月12日正午、佐賀市内で建物火災が起きた。部員7人は団員服に着替え、小型ポンプ車で初出勤。現場では、残り火の処理や交通整理に当たり、消火活動をサポートした。部長を務める奥村浩太郎(49)は、自宅がある小城市で消防団に所属。「出勤先で住民や消防団幹部から『お疲れさん』と声をかけてもらった」と満足そうに振り返る。